



ロボ研究 高校・大学が交流

高松・大豊産業が企画

四国でロボットについて学ぶ高校生が、地元大学と交流し最新の研究成果について解説を受けた。産業用機器の販売などを手がける香川県の大豊産業(高松市)が、ロボットを使ったアイデアを競う大会の一環として企画。地元の先端産業の活性化につなげようと、今後は企業との交流もめざす。

大豊産業が今夏、「ロボットアイデア甲子園」四国大会1次審査の一環として企画した。同大会は四国では昨年から実施されており、今回が2回目の開催。

大会の一環 学生が成果を発表



前回は同社の製品などを高校生に紹介する機会を設けたが、今回は大学教授の講演や学生の研究成果発表の場を設けた。

8月に愛媛大、徳島大、香川大の教授・学生と、各県から約70人の高校生が参加した。

8月に愛媛大、徳島大、香川大の教授・学生と、各県から約70人の高校生が参加した。

加した。高校生は大学の発表を聞いたうえで、ロボットを使ったソリューションの提案書を作る大会の1次審査に臨んだ。通過した数名が10月に香川県で開催する四国大会の決勝に挑み、優勝者は2023年1月に開く全国大会に進出する。

23年度からは高校・大学に加え、地元企業との交流の場を設けることをめざす。大豊産業の神野孝博専務は「共同研究やリクルートのきっかけになれば」と意欲を示した。

高校生が大学のロボット研究の成果について学んだ(8月、高松市)

支局

高松徳高
松島087-831-233
山島088-652-234
0888-945-348
89-741-203
21-334
2-349

